

工業つ子

NO.087
—発行日—
2013.09.27

—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部



▲頼れるナイスガイ

「試験にヒキドキ、合格にワクワク」

就職試験スタート!

今年もこの季節がやって来ました。九月十六日から県外を中心に三年生の就職試験が始まっています。就職試験を目前に控えた三年生の心境を伺ってみました。

三年生にインタビュー

Q 今、一番不安なこと。
A 面接／落ちること／慣れない環境でうまくやれるか／他の受験者とのコミュニケーション／試験会場に辿り着けるか

Q 試験に向けて頑張っていること。
A 夏休みから放課後、毎日面接練習／資格取得／集団討議。違う科の人とも練習した／体調管理／履歴書書き

Q 会社選びのポイント。
A 車のタイヤに興味があった／夢に最も近い職業／新人の教育制度が充実している／休みが多い／学校で取った資格を生かせる

Q 今年の就職試験は厳しいですか。
A 求人数が以前より減っているから、あんなに大変なことはないね



Q 今年の就職試験は厳しいですか。
A 以前より減っているから、あんなに大変なことはないね



Q 今年の就職試験は厳しいですか。
A 以前より減っているから、あんなに大変なことはないね

「心れない」の大事さ

文化部の1日「総文祭」長工新聞部も三人が選手として参加し、選手以外も取材に推用にと駆け回りました。

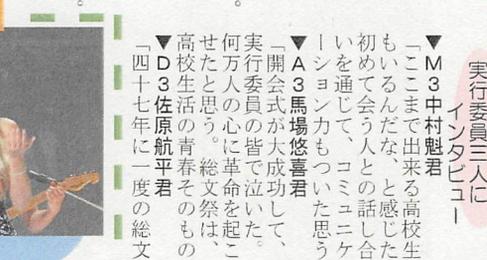
その「しおかせ総文祭」で私が驚いたことがあり、その一つが総文祭実行委員会生徒による企画「鶴ば折ろう！」です。総文祭で長崎を訪れた全国の方々に平和を祈る鶴を折ってもらう企画で、その鶴は大会終了後長崎市の原爆資料館に寄贈されました。

長崎に住む人の多くは幼いころから幾度となく原爆や平和に関する事柄に触れてきています。しかしその一方で何度も何度も平和についての話を聞く内に、いつしか慣れすぎて心が「鈍」になっていくことがあります。実際、私も「またか」と思った経験があります。ところが総文祭の実行委員は長崎の高校生として全国大会で平和を発信することを大事なことと捉えて行動していました。

総文祭が開催された夏、新聞でたびたびの記事を見かけた。高濃度の放射能汚染水がタンクから流出したという話です。最近、新聞で見ているその心配な管の問題の新聞の扱いは、日が経つにつれて小さくなっていくような感じがします。そのようなことを考えると原爆の遠く悲しさを伝えるように、総文祭の実行委員の皆さんは敬意を表します。

Q 就職に向けて、自己PRが出来る人が少ないのでは、というのか、明確に表せるように、それに毎日授業を真剣に、寝ないでコツコツ取り組もう。その姿勢が企業に評価される。Q 三年生へ向けて一言。A 最後まで諦めずに取り組んでください。

組んでください。渡海先生は「三年生皆張っていた。面接では自分のことを正直に話すことが大事。とっさの質問に答えるため、平日頃からいろいろな人と話そう」と話していました。



それは、青春そのもの。全国高等学校総合文化祭長崎大会

七月三十一日から五日間、長崎県内の十五市町で総文祭が行われ、長崎工業高校も参加した。総文祭は長崎市の総合文化祭「しおかせ総文祭」の一環として、浪美希さん(長崎東)の「文化の船」(長崎東)の始まりを告げました。実行委員は県内の高校から募集され、二年前から合宿などを通じて、長工から参加した実行委員三人にインタビュー。

▼M3中村魁君
「ここまで出来る高校生もいるんだな」と感じた。初めて会う人との話し合いを通じて、コミュニケーション力もついたと思う」

▼A3馬場悠喜君
「開会式が大成功して、実行委員の皆で泣いた。何万人の心に革命を起こせたと思う。総文祭は、高校生活の青春そのもの」

▼D3佐原航平君
「四十七年に一度の総文祭を自分たちの手で作り上げた。この経験が人生の糧になる。開会式実行委員長の加藤正美さん(松浦高)も「これまでも全部、皆で頑張ってきた」と語っていた。開会式、国際交流や平和の大切さを伝えるステージで、観客の感動を呼び、大いに盛り上がりました。

▼美術工芸部門 J3山尾鉦子さん
「スタッフとしても出たので、色々な角度から見る事ができました。総文祭で、色んな角度から見る事ができました。総文祭で、色んな角度から見る事ができました。」

▼自然科学部門 C2右田章兵君
「ハイレベルなプレゼンが凄かった。人前で話す力が鍛えられたし、大勢の前でも緊張しなくなってきた。自然科学部門 P2竹田健太郎君
「科学物理の口頭発表を行いました。練習した素敵な大会になりました。」

▼将棋部門 J3井上聖隆君
「委員長という仕事で自分を高められたと思いましたが、委員長に立候補し、熱い戦いに引き込むことが将棋の魅力だと思いが、総文祭が青春の思い出になりました。」

▼文化祭サミット部門 A2井口清太君
「生徒会から毎年何人か参加して、良い機会だと思っていて参加しました。行事運営は各高校の学校によって特色が違ったので、これからの長工に反映させていきたいです。」

▼文化祭サミット部門 C2杉山仁志君
「各県の文化祭や県独自の文化を伝えてあげられるのが、長崎にない文化を学ぶ事が出来た。交流会でステンドグラスをグループで一緒に作りました。事が印象に残っています。」



成長途中

夜になると、半袖では肌寒いと感じるようになってきた。夏休み中にも「少し黙ってくれ」と思っていたセミの音も聞かなくなってきた。秋が身近になりつつあります。さて、今回の一枚は「まつぼっくり」です。一枚は小さく縮こまっていますが、秋本番には綺麗に開いた「まつぼっくり」の姿が見られることでしょう。夏が過ぎ去る行く秋は寂しい気もしますが、秋にはいもつと多くの楽しみが待っているように思います。(昌道)

初秋。昼間はまだまだ暑いとはいえず、朝になると肌をなぞるような寒さを感じるようになってきた。おかげで自転車通学(オールドリ坂)の私は毎日チキン肌全開。最寄り駅までの片道二十分間、私は人と鶏のハーフになったのだ！学ランはいつになったら着れるようになるのかね。

話変わって先日H、私と同姓の某電気屋でCDプレイヤーを買いました。「創業セール中大特価」「本日限り！」という魔法の言葉にかけられて購入を決意し、自転車のかごに乗せ三時間かけて帰宅。頑張ったせいで、頭強機の一角に堂々と立つ純白の姿はまるでユニコーンの様(謎)。机の三分の一が埋め尽くされた。

た分、いい結果を得られたので、これを次に活かしたいです。

▼総文祭サミット部門 A2井口清太君
「生徒会から毎年何人か参加して、良い機会だと思っていて参加しました。行事運営は各高校の学校によって特色が違ったので、これからの長工に反映させていきたいです。」

▼文化祭サミット部門 C2杉山仁志君
「各県の文化祭や県独自の文化を伝えてあげられるのが、長崎にない文化を学ぶ事が出来た。交流会でステンドグラスをグループで一緒に作りました。事が印象に残っています。」



今日の一枚

思い出、かなしみ、持ちて、過ぎる夏、足音

青春日記

れたが気にしない。オフレなミュージックライフが今、始まる...。そう思っていた矢先、ある問題が生じた。CDを持ってねえ。

さあ、ここで浮上してくるのが高校生の永遠の課題の一つ、金銭問題。上手い具合に「これがしたい」「あれが欲しい」の妥協点を見つけ、金策を立てる。この能力が高くない人は社会に出て安泰にのんびり生活が望める。ちなみに私はこれが絶望的。財布の中には赤茶色のコインが数枚あるのみ。色々と出費の多い男子高校生とはいえず、この散財具合は異常じゃないか? そう思ってしまった。溜まっていたラッシュリ金を覗いてみると、有り金に消えてしまった。美味いね、しょうがない。

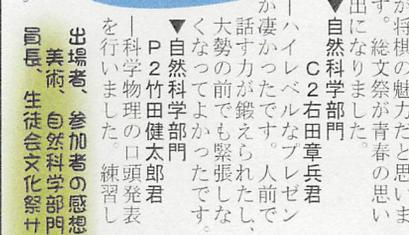
誰か私にスピッツのユニコーンの様(謎)を買ってください。(山田)



総合開会式「国際交流」の中、オランダのバンド演奏。その美声にシビれました。



開会式と同日に市水辺の森公園に多くの見物客が詰め掛けた。



あよこっと名場面

出場者、参加者の感想は...
美術、自然科学部門の出場者、将棋部門実行委員、生徒会文化祭サミット参加者について